

鈴鹿市立合川小学校					
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	1 授業改善 ・わかる授業をめざした指導方法の工夫・改善に取り組む。 (児童アンケート「授業の内容は、よくわかりますか」95%以上) (保護者アンケート「学校は、確かな学力の育成をめざし、わかりやすい授業に努めていますか」95%以上) ・全国学力・学習状況調査及びみえスタディ・チェックの結果分析を行い、授業改善に活かす。 (県平均以上)	●児童アンケート92%(95%) ○保護者アンケート100%(100%) 全国学力・学習状況調査6年：国語○, 算数●, 理科○ 第1回みえスタディ・チェック 4年：国語●, 算数● 5年：国語●, 算数○, 理科●	○低中高学年で1学年ずつ、国語科の授業研究を行った。教育指導課より指導主事を招請し、全教員で指導方法について研究討議し、研修を深めた。 ○月1回程度、自主的なミニ学習会を行い、ICT活用や思考ツール活用など、日々の授業実践を教員同士で共有し、それぞれの授業に生かした。 ○全国学力・学習状況調査の分析を行い、本校児童の強みと弱みを把握し、各学年2学期以降の重点単元を中心に、指導の工夫を行った。	・少人数の強みを生かして丁寧な指導が行われている。ICTを効果的に活用している。一方で教員の指導力に差があるように感じる。教員同士で授業実践を共有し、子どもたちがのびのびと学べる環境づくりを進めていただきたい。 ・タブレットを活用し、各個人毎、何が理解しづらいかを提出させ、学習指導に役立ててはどうか。 ・できる範囲、無理しない範囲で、今後も教職員のスキルアップに努めてほしい。 ・少人数ならではの個々に対する指導をこれからも行っていただけたらよいと思っています。 ・少人数での当校の利点を活かし個性のある教育を！！ ・良いところをほめる教育を！！ ・スマホやタブレットが当たり前に低学年から使われる時代になりましたので、引きつづき「ICT活用による学びの充実」・「ICT利用スキルの向上」に取り組んでいただきたい。	・引き続き、市教育委員会や県教育委員会の指導・助言を受けながら、国語を中心に授業研究に取り組む。また、定期的に、教員同士による実践交流会(ミニ研修会)を開催し指導の充実を図る。 ・引き続き、ICT支援員と連携し、学力向上に向け、児童が授業でタブレット端末を効果的に活用できるようにする。また、タブレット端末で活用できる思考ツールなどのテンプレート充実させる。 ・全国学力・学習状況調査や、みえスタディ・チェックの結果分析を踏まえ、系統性をみながら、各学年で身につけるべき力をつけられるよう授業改善に取り組む。 ・みえスタディ・チェック実施後、県教育委員会が提供するCBTシステムを活用し個に応じた指導の充実を図る。
	2 英語教育の推進 ・児童に満足度の高いコミュニケーション活動を提供する。 (児童アンケート「英語の授業や活動は楽しいですか」95%以上)	○児童アンケート96%(99%)	○3年生以上で外国語活動・外国語科の授業指導案を毎時間作成し、教員同士で授業内容について共有し、活動内容を充実させた。 ○4月に、3・5年、4・6年合同の外国語の授業を行い、教員同士で合川小の英語の流れや大事にしていることを伝え合う機会を設けた。 ○月に2回イングリッシュタイムを設け、低学年の児童がALTと英語に慣れ親しむ機会を設けた。	・先生方の取組の成果が確実に出ています。今後も続けていただきたいと思います。 ・日常的に英語に触れあえる環境になっている。 ・子ども達が楽しく英語に触れていることがとてもよいと思いました。 ・「英語を覚える」ではなく「英語を使う」機会が大切となりますので、イングリッシュタイムなどの取組を継続強化いただきたい。 ・特認校である英語について、しっかり取り組んでいる。	・引き続き、ALT(外国語指導助手)と連携し、イングリッシュタイム(1,2年生)、外国語活動、外国語科の授業を進める。 ・イングリッシュタイム、外国語活動、外国語科以外の学習や、委員会活動、給食、掃除、休み時間などにALTと児童が関わる機会を設け、日常的に英語に慣れ親しむことができるようにする。また、英語による読み聞かせを実施したり、英語に係る校内掲示を充実させたりする。 ・3年生以上の学年でも、朝学習の時間に、週1回モーニングイングリッシュを実施する。
	3 家庭学習の定着 ・宿題や自主学習の指導を通して、家庭学習の習慣化と定着を図る。 (児童アンケート「[15分×学年]の時間、家で勉強していますか」90%以上)	●児童アンケート77%(88%)	○家庭学習強化週間中は、学校と家庭の働きかけによりどの学年も習慣化に向けて良好な結果が得られた。 ○端末を家庭に持ち帰り、宿題や家庭学習に生かすことができつつある。 ●家庭学習強化週間だけの取組に終わらず、端末を活用した学習を充実させるなど、家庭学習の習慣化に向けた工夫が必要だった。	・15分と言う時間だけで学習が出来たと満足にならない様に ・達成状況の向上に努めてほしい。 ・コロナ禍での欠席あるいは不登校児のタブレット通信での授業参加がもつとり入れられ、それがあたりまえというようになっていけばよいと思った。 「××時間勉強する」という数値も大切ですが、「勉強して～ができるようになる」など本来の目的を重視し、子どもと保護者に働きかけていただきたい。	・天栄中学校区連携を基盤に、家庭学習強化及びノーメディアの取組を継続する。 ・ICT支援員と連携し、家庭学習時にタブレット端末を効果的に活用できるようにする。 ・年度初めの学級懇談会で家庭学習の目的と取組方法を伝えたり、取組状況に応じて家庭への協力を要請したりするなど、学校と家庭が連携して進める。
	4 外国人児童の日本語指導の推進 ・JSLバンドスケールを活用し、日本語指導を推進する。 (JSLバンドスケール結果の検証)	○個別の指導計画に従って、日本語指導を実施。バンドスケールは3学期に実施予定。	○指導員と連携し、その都度必要な支援をしながら、日本語能力を高めることができた。	・外国人児童が学びやすい環境に引き続き努めてほしい。 ・外国人児童の保護者とも連携・協同した取組の検討をお願いしたい。	・引き続き、外国人児童の日本語能力や学習内容の理解度を踏まえ日本語指導員と連携し指導・支援の充実を図る。 ・面談や、日本語支援員との連携を通して、保護者の願いを把握し、より具体的な支援につながるようにする。
豊かな心の育成	1 児童会活動の充実 ・学校行事や児童会活動、たてわり班活動などで、児童一人ひとりに「出番・役割・承認」の場や自他の違いやよさを認めさせる場を設け、自己肯定感を高める。 (児童アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」90%以上)	●児童アンケート72%(78%)	○日々の取組に加え、4,5月に生活目標「友達のいいところを見つけよう」を掲げ児童会を中心に”いいところTree”に取り組むなど、個々の良さが実感できる機会を設けた。 ●活動の場を工夫するとともに、児童自らが努力や成長を捉え認めることができるよう、活動の振り返りや評価のあり方を工夫する必要がある。	・自分の良さを評価するのは難しいと思われます。取組の友達からの良い評価を本人に伝える事でその児童の自信につながると思いますので続けて下さい。 ・児童のアンケート結果としてはやや低い数値が出ているが、日々の取組に加え、児童会を中心に自己肯定感を高める活動が全校で行われていて良い。1クラスの数人が少ない分、全校での取組を大切にしていきたい。 ・自治会定例会等の場で、児童たち1か月の報告をしていただき、ありがとうございます。 ・一年の中で一度でもそれぞれの良さを発揮できるリーダーとしての役割りが持てる機会をつくってあげられると自信につながっていくのではないかと思います。 ・学校での生活目標を家庭にも共有し、各家庭でも声かけ・評価していただくなど、子どもたちに「認めてもらえる」経験をたくさん積ませていただきたい。	・引き続き、児童会を中心に、児童の自己肯定感の向上につながるような集会や取組を企画・提案する。 ・縦割り班活動で、互いを知り認め合える活動を取り入れる。
	2 自発的なあいさつの推進 ・あいさつ、チャイムを守った行動に重点を置き、教師が率先して取り組む。 (児童アンケート「自分から進んで気持ちのよいあいさつをしていますか」100%) (児童アンケート「チャイムが鳴ったら、席について勉強の用意をしていますか」100%)	●児童アンケートあいさつ85%(91%) チャイム74%(91%)	○日頃のあいさつ指導に加え、児童会・代表委員の児童が児童集会で劇を通してあいさつの大切さを伝えたり、毎朝校舎内をあいさつして回ったり、あいさつの状況を放送で知らせてやる気を向上させたりするなど、児童同士で意識を高めることができた。 ●登下校時や放課後のあいさつがやや弱い傾向があるため、引き続き、学校と家庭、地域とともに取組を進める必要がある。	・達成目標値と差が大きいです。これは、地域住民と接した時など住民側にも責任があるかも ・登校時、地域の方や旗当番で来ていただいている保護者の方へ「進んで」「気持ちのよい」あいさつを意識できていない児童もいる。引き続きご指導いただきたい。 ・達成状況の向上に努めてほしい。 ・統廃合が実現となってしまうと、バス通学となり、ますます地域の人と触れ合う・あいさつを交す機会も減ってしまうのではないかと思います。現状のうちにもっと地域の人とのあいさつを交わらせるような関係がつくれるとよいと思った。 ・校外で会うときや学校で来客として行ったときもあいさつを気持ちよくやっていたいただいています。チャイムが鳴ると校庭からは室内に行く様子はみえています。 ・あいさつについては、当校の児童は良くできている。 ・家族間のあいさつの習慣が外でのあいさつにつながる。 ・学校内で会う子どもたちは積極的に大きなあいさつができていて、とても気持ちよく言うことができます。先生方・地域の方・保護者側があいさつや一言を返していくことで、より意味のあるあいさつ(=コミュニケーションの入口)となるのではないかと考えます。 ・コロナの影響でマスク生活となり地域住民の顔の判別が難しくあいさつがしにくいのでは。	・校内だけでなく、地域でもいいあいさつができるよう、日頃のあいさつ指導を継続する。 ・児童会を中心に、気持ちのよいあいさつができるような取組を企画する。 ・教職員からの積極的な声かけとともに、あいさつ運動の機会に、声かけなどの働きかけを保護者や地域の方々に依頼する。
	3 特別支援教育の充実 ・「すずかっ子ファイル」に基づく教育を行うとともに、ファイルの見直しを図る。(毎学期) ・特別支援学級児童への理解を深める取組を進める。 (各学年1回以上)	○毎学期実施 ○3学期に、1,2年で実施予定	○教職員の特別支援教育研修会を行い、児童対応への理解を深めることができた。 ○1学期に、特別支援学級や在籍児童のことを理解する授業を、1年生で行う予定であったが、担任交代等の都合で行うことができなかった。3学期に行う予定である。	・特別支援教育について、全教職員対象の研修を引き続き行ってほしい。支援学級籍の児童についての理解については、障害があるから特別なのではなく、個を尊重することの大切さに気づくようご指導いただきたい。 ・違うことが認めあえることは心豊かになれることだと思う。 ・自分の良さを知ること他人の良さも認められ、いろいろな人と共在し助け合える子どもたちでいてほしい。 ・特支学級でなくても発達障がい児が普通学級に在籍するのが当たり前となってきましたので、全ての学年に対し理解促進につながる取組をお願いしたい。	・引き続き、教職員を対象に特別支援教育に係る研修を行ったり、全児童を対象とした特別支援学級籍児童への理解を深める授業を実施したりする。 ・特別支援学級籍児童だけでなく、どの子も個性があり、その個性を尊重できるような日々の取組を大切にする。
	4 多文化共生教育の推進 ・多文化共生の授業を行う。 (各学年1回以上)	○各学年で、多文化共生・国際理解の授業を実施	○各学年で、外国語活動・外国語科、道徳、総合的な学習の時間などに、調べたり体験したりALTと交流したりして様々な国の文化に触れることができた。 ○学習発表会では5年生が取り組んだ外国調べの発表があった。クイズ形式になっており、どの学年も楽しみながら外国の自然や文化について知ることができた。	・国際理解の活動について、児童が楽しみながら学べる工夫がされていて良い。またICTを効果的に使い、児童が意欲的に取り組んでいた。 ・いろいろな文化や考え方を認めあえたら、相手を理解し敬うことができる。難しいことにぶつかったとき大きな力になると思う。 ・「多文化共生」は特別な活動として学ぶものではなく、日ごろの生活の中で常に存在する課題ですが、継続した取組をお願いしたい。	・各教科にちりばめられた多文化共生の視点に基づいた学習を、引き続き丁寧に扱うことを続ける。 ・多文化共生の視点に基づいた学習の際、ALTの母国についての話なども伺い、実際の見方・感じ方を知る機会を持つようにする。

令和4年度 学校関係者評価書(案)

鈴鹿市立合川小学校					
評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
安全安心な学校づくり	1 新たな不登校を生まない学校づくり ・教職員と子ども・子ども同士の温かい人間関係づくりに努める。 (児童アンケート「学校は楽しいですか」100%) ・日ごろから保護者との関りをもち、気になることがあれば早めに家庭訪問等を実施する。 (保護者アンケート「学校は、お子さんに対して親身になって対応し、一人ひとりを大切にされた教育活動を行っていますか」100%)	●児童アンケート94%(94%) ●保護者アンケート94%(99%)	○欠席が続く児童には、担任が保護者と連絡を密にとっている。登校を渋る児童には、担任だけでなく管理職や養護教諭が関わりをもつほか、全教職員で情報を共有し、見守っている。 ○兄弟関係や家庭環境にも注視するため、頻繁に家庭訪問を行ったり、中学校と連携を図ったりしている。 ○欠席が続く児童には、Chromebookを活用し、授業の様子を配信している。	・各アンケートの児童評価で低い児童が要注意ではないでしょうか。全国的な問題だと思いますが、少人数の学校では残念に思われます。 ・欠席の続く児童に対し、速やかにオンラインでの授業配信を行い、友だちとの関わりや学習保障がなされている。 ・児童を見掛けたら、手を振ったり声を掛けたら、自分にできることを実践していきたいと思う。 ・がんばっていただいていると感じています。 ・小規模学校のメリットである一人ひとりへの丁寧なアプローチが行われていると感じています。今後も”児童一担任”ではなく、”児童一教員一同”というチーム単位での対応をお願いします。 ・先生方も原因等をさぐりながら投稿できるよう努力しているが、難しい問題である。	・職員会議などで、定期的に不登校児童についての情報交換の場を確保することで、全教職員が児童との関わり方を意識できるようにする。 ・タブレット端末を活用して児童の学習を保証するなど、「登校する」という目標だけでなく、児童の社会的自立を目標にした支援を進める。
	2 いじめのない学校づくり ・人権教育を基盤とした集団づくりに取り組み、子ども同士のつながりを深める。 ・情報共有を徹底し、いじめをはじめとした問題行動の未然防止・早期発見・早期対応に努める。 (児童アンケート「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」100%) (保護者アンケート「学校は子ども同士のつながりを大切にし、いじめのない笑顔あふれる学校にするために努めていますか」95%以上)	○児童アンケート100%(100%) ●保護者アンケート92%(94%)	○日常の観察や関わり、いじめアンケートなどにより実態把握に努め、いじめの訴えがあった場合には複数体制で被害児童の思いに寄り添いながら対応を進めることができた。 ○11月には、中学校区の幼小中が連携し、いじめ防止月間として全校児童が「いじめ防止川柳」作りに取り組んだ。 ○児童アンケートで100%の児童が「いじめはどんなことがあってもいけない」と答えている。	・設問1と関連があり児童も「いじめはダメ」と思っているが現実には起っているかも知れない。早期発見を願っています。 ・児童アンケート100%が素晴らしい。引き続き、情報共有してほしい。 ・横のつながりを大切に！！ ・月に1度家族と子供の話し合いのテーマを出すのも良い。 ・たてわり活動による異学年児童との交流によって、様々な考え方を学び、違いを体験することが、思いやりの気持ちにつながっていると感じます。「いじめはダメ」のメッセージも大切ですが、人と人とのつながりを様々な枠組みで形成していきたい。 ・いじめは内容によっては将来まで引きずる。対応は大変だがよく頑張っている。	・授業や行事を通じて、児童の人権感覚を磨き、いじめの未然防止に努める。 ・引き続き、いじめアンケートの実施や聞き取りを行い、早期対応に努める。
	3 登下校の安全確保 ・PTAや安心安全ボランティア等と連携し、登下校時の児童の安全確保に努める。 (児童アンケート「地域の人に見守られていると感じますか」100%)	●児童アンケート94%(96%)	○PTAや安心安全ボランティア、地域の方々の登下校時の見守り、教職員による定期的な登下校指導により交通事故0件であった。 ○不審メールが届いた際には、児童への注意喚起とともに、連日教職員が児童に付き添って下校を見守った。不審者に係る事案も0件であった。	・事故等無く先生方地域ボランティアの方々ありがとうございます。 ・学校と地域ボランティア、PTAが連携して登下校時の児童の安全確保を行うことができた。 ・オレンジブルゾンを見掛けるたびに、地域の力を感じます。 ・何事もなく過ぎよかったです。先生方にも集合場所にまで送っていただき、ありがとうございます。 ・登校時にたくさん見守れながら通う様子がみられます。たくさんの方に支えてもらっていると感じられます。 ・地域のみなさんの見守り活動には大いに感謝しています。保護者のボランティアさんも含めてお礼の機会があってもよいのではと考えます。	・引き続き、保護者や地域の方々と連携しながら登下校の安全確保に努める。 ・地域の方々に見守ってもらっていることを児童に伝えたり、感謝の気持ちを伝える機会を設けたりする。
	4 防災教育・安全教育の推進 ・防災訓練及び安全教室を実施し、危険の予知・予測や判断力を高め、自分の命は自分で守れる児童を育てる。 (防災訓練年3回、安全教室2回実施) (保護者アンケート「学校は、子どもの安全確保を配慮して教育活動を行っていますか」95%以上)	○防災訓練2回実施、3学期にも実施予定 ○自転車の乗り方教室実施と万引き防止教室実施 ○保護者アンケート98%(100%)	○防災訓練・安全教室は実施方法を工夫して実施することができた。 ○6月には、大地震発生による下校困難な状況を想定し、家庭と連携して引き渡し訓練を実施することができた。	・災害の状況によっては親も迎えに来れない事も想定されます。 ・災害に対する訓練については地域や家庭と連携し、訓練を実施することができている。防犯訓練(不審者対応訓練)については必要に応じて行うよう検討していただきたい。 ・今後も続けてほしい。 ・訓練の様子は外より見れました。小学生のスムーズな避難の様子に安全教育が生きていると思いました。 ・子どもたちからの現児童はほとんど東日本大震災を知らない世代であるため、今後とも防災教育に力を入れていただきたい。 ・いつ発生するかかわからないので、引き続き訓練等を実施して下さい。	・引き続き、定期的な防災及び防犯訓練を実施する。その際、必要に応じて警察や教育委員会など外部機関の協力を要請する。
開かれた学校づくり	1 鈴鹿型コミュニティ・スクールの推進 ・学校運営協議会での話し合いを基に、学校、地域、保護者が協働した学校づくりを進める。 (保護者アンケート「学校は、地域や保護者に信頼され、地域とともにある学校に向けて努力していますか」95%以上)	○保護者アンケート97%(96%)	○学校の諸課題を共有し、コロナ禍も踏まえながらできることを検討し、教育活動を進めることができた。 ●引き続き、学校と家庭、地域が子どもの成長にかかわることができるよう、withコロナにおける、学校と家庭、地域が連携した取組を充実させる必要がある。	・他校で地域や保護者が協働している事例を教えてもらう事も良いのでは ・地域づくり協議会等の地域団体との連携が、今以上に進むよう尽力したい。 ・具体的事案を出し合い、こんなことをしてほしいなど意見交換の中で可能なことを見つけ実行していけるとよいと思う。 ・まだまだコロナが安心できない中ご苦勞様です。 ・保護者以外でも学校と地域との連携協力が当たり前のように行われており、地域とよい結びつきが形成されていると感じられます。コロナなどの状況が許せば、よりオープンに議論できる場となればさらによいものになると考えます。 ・引き続き現状で進めて下さい。	・引き続き、学校運営協議会での熟議を大切に、地域や保護者とともにある学校づくりを進めていく。 ・今後起きうる様々な変化に向けて、学校・家庭・地域、そして児童の思いを大切にしながら話し合いを進め、具体的な取組につなげていく。
	2 情報発信の推進 ・学校だより・学年通信・ホームページ・メール配信などを活用し、情報発信に努める。 (保護者アンケート「学校は、学校だより・ホームページ・メール配信等で、積極的な情報発信に努めていますか」95%以上)	●保護者アンケート89%(94%)	○定期的に、学校だよりや学年通信、学校ホームページなどにより、学校や児童の様子、課題や取組を共有することができた。 ●学校ホームページについては、学校だよりや学年だよりの発行とズレることがないよう、適宜更新する必要があった。	・学校だよりには各学年の活動の様子が詳しく書かれており、学校や児童の様子がよくわかる内容だった。 ・紙媒体も電子媒体もどちらも大切だと思う。 ・定期的に学校の様子がわかりたいと思います。 ・ICTの普及という時代の変化に合わせた情報発信の検討をお願いしたい。保護者や地域にとっては、学校での児童の様子を知ることが学校との心理的な距離を図る指標の1つであると考えます。 ・情報を共有することは大切ですので、今後も発信して下さい。	・学校だより配付の際は、速やかに学校ホームページにも掲載できるようにする。
教職員の働き方改革	1 教職員の総勤務時間の縮減 ・一人当たりの月平均労働時間 30時間以下 ・年360時間を超える時間外労働者数 0人 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 ・一人当たりの年間休暇取得日数 22日以上 ・設定した日の定時に退校できた職員の割合 90%以上 ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 70%以上	●月平均労働時間34.3時間(25.6時間) ●月45時間超時間外労働者延べ23人(6人) ・年360時間超え時間外労働者5(4)人 ●年間休暇取得日数12日(15.5日) ●定時退校日実施率20.0%(74.5%) ●60分以内に終了した会議43.1%(19%)	●日々の業務に加え、新たな課題への対応により、時間外労働時間及び労働者数(延べ)が増加した。 ●60分以内に終了しない要因として、議論する場面が多いことが挙げられる。部会を機能させたり、ペーパーレス化を一層進めたりするなど、会議前の準備を含めた会議の持ち方を再考する必要がある。	・一般企業では、30年も前より働き方改革を実施しており数字は改善されたが、サービス残業になっていた。問題が発生しない様にする事が労働時間短縮に一番つながります。 ・教職員が憧れの職業になることを望みます。 ・いつもありがとうございます。 ・保育所終業後も職員室にあかりがついている様子に仕事が終わらないのかなと心配になります。コロナもあり業務が多いのかなと思いました。 ・打合せの時に椅子をなくし立って行うのも時間短縮につながるかも ・定期的な報告物は手のあいた時に下準備を行う。 ・以前は教職員の出張や会議などが多くみうけられましたが最近ではそれらが改善されたのか？あまり見うけられないように思われます。 ・教職員のみなさんやそのご家族の健康よりも大切なものはありません。コロナや休職などの外発的要因では仕方ない面もありますが、是非とも心身ともに良好な状態で児童と向き合っただけのことを願います。 ・残業を減らす努力は必要であるが必要な議論は十分するべきと思われる。	・会議のあり方を見直し、時間短縮に努める。 ・特定の教員に業務が集中しないよう組織体制を整えたり、校務分掌の割り振りを行ったりする。